

3年 総合的な学習の時間学習指導案

おいしいまち会見 ～広めよう会見の柿～

日時 平成30年11月26日(月) 5校時
場所 3年1組教室

1. 単元について

(1) 単元の価値

本校周辺は、田園と果樹園が広がり、特に、校区の南西側の丘陵地は、県内でも有数の柿や梨の産地である。本校は、南部の賀野地区と北部の手間地区の中間点にあるが、特に賀野地区は、「富有の里」として、富有柿の柿畑が山合いに連なり、生産・出荷に力を入れている。会見では、地元の特産として柿をPRしているほか、街灯のデザインを柿にしたり柿のキャラクターが作られていたり、生活に身近なものになっている。また、毎年11月には、「全国柿の種吹きとばし大会」も大々的に行われ、観光資源としても期待がかかる。その一方で、近年、会見選果場では、選果される果物の種類が、10月の輝太郎柿と11月の富有柿のみに特化され、もともと多く作られていた西条柿や梨などは、西部地区の他の選果場に出されたり、自家用として消費されたりしている。実際に、柿畑を管理しておられる農家の方々の高齢化もあり、家族経営での生産・管理の大変さがあるという。子ども達は昨年度3月に行った現4年生との引継会、4月の特産物調べから会見が県内でも有数の柿の名産地であることを知り、関心・意欲をもって取り組んでいる。これまでの学習で、学校の外に出かけ、柿農家や選果場、JAの方と関わり合いながら、柿について学んだり、柿に対する地域の方の思いを知ったりする活動を重ねることで、柿に対して愛着や誇りを感じている。また今まで当たり前に見ていた会見の柿のことを知ることで、会見の宝として実感することができる。そしてPR隊として自分たちの活動から、会見の柿のすばらしさ、柿で会見を元気にする方法も考えている。そのことを踏まえてこれからは、学習の中で関わっていただいている大人に自分たちがしてきたことを提案する場面を設定していく。大人と子どもの考えのずれに気付く場を設定しながら学級全体で本当に相手の立場も考えた値打ちのある活動を考え実践し、評価を受けたり振り返ったりすることで、子どもであっても地域の役に立つという充実感を味わい、進んで地域に関わっていく態度を育てたいと願い、この単元を設定した。上記のように会見の柿を素材に地域の方と関わりながら地域のことを考え、行動に移す達成感を味わったり、自分達の成長に気付くことができたりするのは、この単元の大切な価値である。

(2) 子どもの実態

今年度7月に行った「総合的な学習の時間」についてのアンケートでは、下記の通りである。

32人中	そう思う (人)	どちらかといえば そう思う(人)	どちらかといえば そう思わない(人)	そう思わない (人)
みのりの時間の勉強は好きだ	21	8	2	1
体験したことや集めた情報を整理したり、課題を解決するためにどの情報を使ったらよいか考えたりしている。	18	9	3	1
地域をよりよくしようと思い、友だちや地域の方と協力して学習を行っている。	19	12	1	0
みのりの時間で学習したことは普段の生活や社会に出たときに役立つと思う。	16	13	3	0
地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。	13	8	7	4

子ども達は3月に引継会で現4年生の取組を知り、本単元の学習に興味をもつと共に、新しい学習である総合的な学習の時間(みのりの学習)をがんばろうという意識をもって生活している。1学期末のアンケート結果でも、29名がみのりの時間を好きであると回答している。本校は、全校が徒歩通学であるものの、日々身近に柿を見ている子どももいれば、新興住宅地であり柿との接点がない子どもも多い。さらに自分の家で柿を栽培している子どもは学級で数名いるが、あまり農作業を手伝った経験がない。昨年度の3月に現4年生から1年間の取組を聞き、4月には会見の特産物を調べ、柿について学習していくことになった。昨年より、2つの柿畑を学習の場としてお借りすることができ、そのうちの一つが専業農家の方の畑で、もう一つが兼業農家の方の畑である。子ども達はその2つの柿畑を比較しながら学習をすることとなり、5月には実際に柿畑に出かけた。2つの柿畑の立地の違いや、農家の方が柿の栽培に一生懸命に向き合っておられることを肌で感じる事ができた。また、疑問に思ったことなどをインタビューする活動も行った。その後、約1ヶ月おきに見学を続けながら、作業の様子や実の成長をつかんだり、自分達の本や枝を決めさせていただいて、成長をより楽しみにすることができたりした。2学期には、2つの柿畑へそれぞれ出かけて行って柿の実が大きく育ってきたことを観察した上で、どのようにPRができるか具体

的に考えていった。すると子ども達から「かきっこ館をつくりたい。」とアイデアが出た。鳥取県内には梨と蟹についての資料館(なしっこ館、かっこ館)があり、個人的に訪れたことのある児童が多数いた。その中で、かきっこ館をつくって開館することで、より多くの人に富有柿を知ってもらえると子ども達なりに考え、資料館開館を目指して、様々な資料を自分たちでつくるプロジェクトチームを立ち上げた。プロジェクトチームの中間報告会では、それぞれがまとめた資料や活動を発表して、良いところはもちろん、アドバイスをし合い、全員でかきっこ館をつくるという意識を高めることができた。また、柿農家さんの「会見に住んでいるのだから、会見の宝を守りたい。」という言葉聞いて自分たちに何が出来るかを考え、もっと国内外の人たちに富有柿を知ってもらうための活動をしたと、米子鬼太郎空港での富有柿の試食・紹介を行った。はじめはなかなか声をかけられず、何をどうしていいか困っていた児童も、おいしそうに食べてくださる方々の笑顔から自信を持ち、大きな声で呼びかけられるようになった。子どもたちは富有柿が特産品とは分かっていたが、実際にお客さんの反応を見て、自分たちの町の特産品はとても素晴らしいものだということ認識できたようになったと感じる。

(3) 指導にあたって

①自分達が体験したことやインタビューしたこと、調べたことをまとめ、発表する場の設定

子ども達は柿農家の方はもちろん、富有柿に関係する方からお話を聞いた。かきっこ館のプロジェクトチームは12チームあり、それぞれが互いの活動がわかるように掲示等で工夫できるように取り組んでいる。また資料を使って調べるだけでなく、富有柿に関係する人から話を聞くことで地域の方も富有柿を知ってもらうために努力していることに気づかせたい。発表する時には誰に知ってもらいたいのか、相手意識を持たせながら自分のプロジェクトチームの活動ができるように声かけや児童が互いにアドバイスできる機会を設けるようにする。これまで調べたりインタビュー等で分かったことの情報を視覚的に整理したり、学習内容を構造的板書で工夫し、整理・分析したりすることで子ども達の思考が明確になり、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することができる。

②自分達の考えや思いが実践される場の設定

子ども達は、地域の方や町外の方に「富有柿をもっと食べてもらいたい。」「富有柿のおいしさを伝えたい。」などのアイデアを思いつくことが予想されるが、その活動で本当に富有柿について広められるものなのかを考えさせ、相手の立場も考えた値打ちのある活動なのかを思えるようにしたい。そうすることで自分達の力で地域を盛り上げていくことができるという自信や今後の活動への意欲付けをしたい。また、これまで外部の方(選果場など)に新しいアイデアや反対意見を受けたときにこそ、子ども達が本気で考え、活動を前進させることができている。子ども達を本気にさせるよう外部の声を提示し、大人と子どもの考えのずれに気付かせ価値ある実践の場へとつなげていきたい。また、単元の最後には、2学期の活動を振り返って、実践してきたことが会見を元気にすることにつながったのか、振り返って3学期につなげたい。

③特別支援学級の児童への支援

本学年は3つの特別支援学級(知的・情緒・難聴)の児童5名が含まれる。それぞれの児童が自信を持って意欲的に活動できるように、プロジェクトチームや普段の活動での支援などを各担任と話し合っている。なかには全体での活動に参加することが難しい児童もいるが、各担任と学習や活動内容を確認し、交流学級と同じように進められるようにしている。全体で話し合いをする場面などは、支援学級の児童が自分の意見を相手に伝えられるよう、各担任がそれぞれの児童の支援をしていきたい。

2. 単元目標

- ・地域のよさや地域の方の思いを感じながら、自分たちの「会見の柿」に対する思いを高め、PRのアイデアを考えることができる。
- ・「会見の柿」にこめる思いや願いが伝わるように工夫し、地域や地域外の人に広めることができる。

3. 単元の評価規準

①知識や技能	②思考力・判断力・表現力等	③学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
ア. 選果場の見学や柿の試食体験を通して柿や梨などの特産物は、生産者と消費者の関係と深く関わっていること(相互性) イ. 調べたことを表にしたり、ポスターにしたりするなど相手に分かりやすくまとめる技能 ウ. 相手を意識しながら大事なことをまとめ、説明する技能	ア. 「会見の柿」にこめる思いや願いが伝わるようにPRの方法を話し合い、発信の準備をしている。 イ. 柿のPR活動の計画に取り組み、いろいろな形で販売に協力し、柿のねうちを伝えている。【社会参画力】 ウ. 地域のすばらしさや地域の方の思いを感じながら、自分たちの「会見の柿」に対する思いを高め、PRのアイデアを考えている。【ふるさと愛着力】	ア. 「会見の柿」にこめる思いや願いが伝わるように地域の方にPRしようとしている。 イ. 「会見の柿」のおいしさや素晴らしさを感じ、地域や地域外の人に広めようとしている。

4. 単元構成（8 2時間…まち未来科1 2時間を含む）

○学習活動	子どもの問い・思考	評価規準
会見の特産物について調べよう（課題設定）1 4時間		
○特産物について調べる。 ○柿畑を見学し、農家の方にインタビューをする。（柿を育てる思い、栽培の流れ、工夫や苦労など） ○「会見の柿」は有名なのかアンケートをとる。 ○これからの活動の見通しをもつ。（どんな風に育つか。おいしく育ててほしい。）	・会見のおいしい食べ物は、柿・梨かな。 ・柿畑はとてもきれいだな。一人でされるのは大変だ。 ・いろんな人に柿を大切に感じてほしい。 ・本当に会見の柿は有名か聞いてみたいな。 ・柿を育てて、収穫したいな。	特産物調べ ①②③ア ②③イ ②ウ ①イ
自分たちで会見の柿を育てて、柿についてもっと知ろう（情報収集）2 2時間		
○お世話の方法を聞いて体験する。 ○活動・季節の作業まとめ 振り返り ○農協の方から柿の栽培や出荷について知る。 ・会見の宝は柿と意識付ける。 ・出荷数、販売経路、加工品を調べる。 ○課題（働き手の不足）に対して、インタビューをし、自分達にできることを話し合う。	・前より大きくなってきたな。 ・枝に名前をつけるのが楽しみだな。 ・柿農家の方と協力しておいしい柿を育てるぞ。 ・会見の柿はすごいなあ。 ・一生懸命育てられているんだな。 ・たくさん出荷されているな。 ・県外や海外にも出荷されているんだ。 ・高齢の方ががんばっておられるんだね。 ・自分たちにできることはないかな。	柿を知る ①ア ②ア ②イ ③ア ②ウ ③ウ ①イ ②エ
会見の宝・富有柿を守ろう（整理・分析）1 0時間		
○会見の宝である柿を守るためのアイデアを考える。 ・ポスター、チラシ ・レシピ作り、デザート作り など ・	・どうしたら、PRができるだろう。 ・会見の柿のいいところが伝わるように考えよう。 ・たくさんの人に食べてほしい。 ・自分たちでやってみたい。	収穫・発信 ①ア ②ア ③ア
収穫し、発信しよう（まとめ・表現）1 8時間		
○柿農家の方や会見を元気にする方法を考え、行動しよう。 ・地域の方だけでなく、米子鬼太郎空港、米子駅、柿の種吹き飛ばし大会などで、国内外の人に富有柿を知らせる。【本時】 ・デザート等を地域や地域外の人に紹介する。 ・チラシ配りと試食コーナーを設置する。	・笑顔で勧めるって難しいな。でもやりがいがあるな。おいしい柿をしっかりPRしよう。 ・柿の良さが伝わるにはどうしたらいいだろう。 ・柿のおいしさだけでなく、農家の方の苦労を伝えたりしたいな。 ・地域の方だけでなく国内外の方にも伝えたいな。 ・試食体験やチラシ配り、デザートの紹介などをしてほしいな。 ・いろいろな所でチラシ配りや試食コーナーをやってみてほしいな。	収穫・発信 ②イ ②ウ ③イ

○やり方を習いながら収穫する。 ○かきっこ館をつくる。 ・地域の方や会見小のみんなへ伝えたい情報を整理する。 ・かきっこ館が開館したら、他の学年の人や来てくれた人へアンケートをする。 ○振り返り	・収穫って思ったより難しいな。 ・農家の方が傷つかないように収穫する姿から柿の大切さがよく伝わったよ。 ・柿の育ちやおいしさ、素晴らしさ、柿農家の方の苦労を伝えたいな。 ・どんなアンケートが返ってくるかな。会見の柿のPRになったかな。 ・収穫のお手伝いできてよかったよ。 ・地域の人や友達と協力するとすごいことができるね。	①ア ①ウ
会見の宝・富有柿を守ろう（まとめ・表現）1 8時間		
○活動の計画を立てる。 ○枝拾いの手伝いをする。 ○ポスト設置・メッセージ集め ○家の人への活動発表会の準備をする。 ○お世話になった方の思いを知り、どのように伝えるかを相談する。 ・修正した活動の発表準備→発表 ○がんばりを認め合い、2年生に伝える相談をする。 ・引継ぎ会 ○活動をふり返る。	・お世話になった方は何がうれしいのだろう。相手の立場になって考えよう。 ・柿農家の方のお手伝いがしたい。 ・柿農家やお世話になった方に感謝の気持ちを伝えたい。 ・元気づけるメッセージを集めよう。 ・がんばった。喜んでくださったかな。 ・2年生に活動したことを引き継ぎたいな。 ・2年生にも1年間の取組が伝わるように分かりやすく楽しく伝えよう。 ・会見の柿がさらに好きになったよ。 ・最初は恥ずかしかったけれど空港で試食のお願いができてうれしかったよ。 ・会見の柿や農家の方は宝物だね。	柿を守ろう ②ア ②ウ ①イ ③イ ①ア ②イ ③ア ①ア

5. 本時の学習

（1）本時の目標

- これまでのPR活動をもとに、次はどのように会見の柿作りについて広めるのか、友だちと話し合うことができる。

（2）準備物

- 振り返りシート（WS）

6. 本時について (48 / 82時間)

目指す姿

会見の柿作りや農家の方の思いなどを伝えるために、今までの活動を振り返り、友だちと自分たちができることを真剣に話し合おうとしている。

・前時までのことを振り返る
・はじめのあいさつ

【主な学習活動・内容】

課題

これから、会見の柿をどのように広めるかみんなで話し合おう。

米子鬼太郎空港や柿の種吹き飛ばし大会での PR 活動を振り返ろう。

たくさんの人に食べてもらえたね。

韓国の人もおいしいと言ってくれた。

大きな声で何回も呼びかけたよ。

みんなで歌を歌えてよかった。すぐに歌を覚えてもらえたよ。

会見の場所や柿が売られているところの説明ができなかったな。

お客さんのじゃまになっていなかったかな。

空港での活動では、会見のよさを伝えられたのだろうか。
米子駅で試食はできない。何をどんなふうに伝えるのか。

米子鬼太郎空港での PR 活動をもとに、米子駅での活動をみんなで話し合おう。

会見の柿づくりや農家の方の思いを、会見のことを知らない県外の方などにも伝えるには、どうしたらよいか話し合う。

柿だけじゃなくて、会見がどんなところか伝えたい方がいいね。

のぼりやポスターをたくさんつくろう。

やっぱり緊張するけど、会見のためにがんばりたいな。

町の中にも柿をPRするためにおかれているものやイベントがあるね。

もっと歌を歌ったらいいな。

会見のことがもっとわかるチラシを配りたい。

言葉だけで伝えるのは難しいな。写真とかもあれば分かりやすいかな。

振り返りをする。

今日の学習で感じたことを WS に書く。時間があれば感想を伝え合う。

振り返り例: 柿のことだけでなく会見のことをどうやって伝えたらいいのかわかりませんでした。でもみんなの意見を聞いて、できることがたくさんあったので、もう一度米子駅でやってみたいです。

まとめの話: みんなで話し合ったことをやって会見の柿を PR し、みんなが大人になっても会見の宝が残っているようになるといいですね。

・あいさつ

留意点

支援

掲示物や動画等を利用して、これまでの PR 活動の頑張りや成果を振り返って、学習に対する意欲を高める。

今まで関わってきた方の思いや会見のことが伝わるのか考えられるような声かけをしていく。特に柿農家さんの思いがわかるように掲示し、確認できるようにする。

プロジェクトチームでの話し合いにすることで、少人数で自分の意見を言いやすい雰囲気づくりをする。互いの意見を認め合い、比べ、さらに良い案になるように話し合いの仕方を伝える。

板書の工夫

(め) これから会見の柿をどのように広めるかみんなで話し合おう。

【空港】【柿の種吹き飛ばし大会】

○よかったこと

写真等

○こまったこと

米子駅では試食はできない

○こうすればもっと広められる

会見のことがより伝わる柿の PR 活動

- ・声のかけ方
- ・配るもの
- ・一目でわかるもの
- ・会見の説明

○ゴール

次の活動にいかせるように板書の仕方を工夫する。出て来た意見について書く場所を意図的に工夫して、話し合いの最後に意見を観点別に分けるようにする。

アイデアを出せる児童には、さらに発案できるように賞賛する。またその発案が本当に有効なのか、時と場合など、相手意識を持って考えさせるような声かけをする。

これまでの米子鬼太郎空港や柿の種吹き飛ばし大会での体験をいかにしながら、富有柿を広める活動を米子駅でどうするのか考えることで次への期待を持たせる。また実際の活動の困ったことに対する改善点を話し合うことで、次回への意欲を高められるようにする。

評価

会見の柿のよさやおいしさを県内外を問わず、様々な人に伝えようと、その方法や伝えることを考えようとしている。③イ
※評価方法…発言・行動観察・振り返りシート

【指導上の留意点・支援・評価】

事前に米子鬼太郎空港での活動で良かったことや困ったこと、こうすればよかったことなどを書かせておき、あらかじめ意見を把握しておく。出てきた意見を他の子どもにも広げるような声かけをする。